

平成30年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名

山村活性化支援交付金事業

2. 事業実施主体名

マロンの里を元気にする協議会

3. 事業概要

・事業目的

マロンの里交流館を拠点として、農業を中心に地域の魅力と価値を掘り起し、商品開発に取り組みながら、雇用と定住を目指し、地域の活性化を図ることを目的とする。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 8,416,641円 交付額 8,416,641円

・事業実施期間 平成30年9月5日 ～ 平成31年3月31日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

マロンの里交流館の売上については、豪雨や猛暑により野菜等の作物の出荷が少なくなり、来客数も伸びずに、目標を達成することができなかったが、地消地産を進める給食センターへの出荷は取り組みの結果、増えてきた。

(2) 取組状況

(1) 地域資源調査

農産物の課題の再把握は、整理できなかった。

(2) 地域の人材育成

将来、地域及び活動の中心となるべき人材として地元の若い臨時職員を事務局員として採用し、月に1回『マロンの里を元気にする協議会』を開催した。

アドバイザーを招き、意見交換や勉強会をとおして地域住民の意識醸成を図りながら、人材発掘と人材育成に取り組んだ。また、直売所では、接客と陳列についても研修を行った。

新商品開発とその生産出荷体制を学ぶため、先進地視察を実施した。

(3) 販売促進とマーケティング調査

毎月第1土曜日に開催する朝市を充実させるため、山の幸と海の幸のコラボ、そして、来場者増及びリピーターの獲得を目指して、毎回『〇〇放題』を開催した。

毎月給食会議を開催し、また、地元農家に直接コンタクトを取りながら、交流館と給食センターへ出荷するよう働きかけ、出荷量を伸ばすことが出来た。

敷地内に看板の製作や施設のパンフレットなどを作成した。

(3) 事業実績

①月に1回『マロンの里を元気にする協議会』を開催し、マロンの里に関わる人たちが自由に思いを話し合う機会をつくり、アドバイザーを招いた意見交換会や出荷者勉強会を通して、地域住民の意識醸成を図った。また、人材育成として、協議会事務局員に地元の若者を採用した。

②新商品開発とその生産出荷体制を学ぶため、先進地視察を実施した。

③毎月給食会議を開催し、給食センターへのお荷量を伸ばした。

④毎月開催している朝市を充実させて、リピーターの確保と来場者の増加を図った。

⑤地元食材を使った加工品を販売した。

⑥看板やパンフレットの制作など、情報発信ツールの整備を行った。

(4) 実施体制

マロンの里を元気にする協議会

(5) その他事項

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
マロンの里交流館の売上	44,000千円	20,484千円	47%
事業を推進する協議会の事務員	0人	0人	0%
給食センターへの農産物出荷量(販売額)	900千円	967千円	107%

(計測方法) マロンの里決算資料

・所見

マロンの里交流館の売上については、豪雨や猛暑により野菜等の作物の出荷が少なく、来客数も伸びず、目標値を達成することができなかった。今後の料理開発・商品化により売上増・集客増を目指す。
 事業を推進する協議会の事務員については、令和3年度以降は交流館の売上により雇用ができるように事業を展開していく。また、給食センターへの農産物出荷量(販売額)については、引き続き、目標値を上回るよう、働きかけを行っていく。